



～小中学校の実践から子どもたちの学力向上への「進路」を示す～

第5号

学びのコンパス



事例 13

小学6年生が中学校校舎で学ぶ小中一貫教育校の実践例から……

小学校と中学校の学びを繋ぐ「学びのスタンダード」による授業づくり

小学校と中学校を“繋ぐ”方法にはどのようなものがあるのでしょうか。今回は、学習規律に関する「学びのルール」、授業展開に関する「学びの進め方」、学習形態に関する「学びのかたち」という3つの視点から、小中学校における授業のスタンダード化を図った東山泉小中学校の取組を紹介します。

学びにふさわしい環境づくり

学びのルール

挨拶や返事など、当たり前のことを徹底して行い、学習を支える「規律」として取り組んでいます。



名前を呼ぶときは「～さん」、発言したり話し合いをしたりするときには、「～です。～ます。」と、丁寧な言葉で相手を意識し、筋道を立て、根拠を示した表現活動となるように指導しています。発表の仕方や話し合い方を示した「話型」、意見を整理しながら授業の司会進行をするための「司会ヒントカード」を教室に掲示しています。

「よく考える授業」を展開するために…

学びの進め方

一人一人が“よく考える”授業を展開するために、授業者が学習や授業展開のプロセスを意識しています。



- ① 学習課題（めあて）を示す
- ② 学習計画を立てる
- ③ 課題解決のために必要な情報を収集し選択する
- ④ 考えを構築し、まとめる
- ⑤ グループや全体で交流する
- ⑥ 学習全体を振り返る

「めあて」と「振り返り」の徹底！

論理的思考力を高めるために…

学びのかたち

「ひとり学び」「ふたり学び」「グループ学び」「全体学び」それぞれの効果が得られるよう毎時間の授業を組み立てます。

「ひとり学び」は、自分の考えを構築・記述します。「ふたり学び」は低学年を中心に取入れ、自分の思いや考えを相手に伝え、それに対して感想を述べたり質問をしたりします。「グループ学び」では司会、記録、タイムキーパー、報告者の役割を全ての児童生徒が担えるように工夫し、幅広い力を身に付けることを目指します。これらの学習形態を通して根拠を明らかにした表現活動に取り組みます。

シラバスの家庭配布

上記3点（学びのスタンダード）や、学びの1年間の流れ・内容が分かる学習計画表を掲載した「シラバス～学びのみちしるべ～」を、学年毎に作成し、年度初めに全家庭に配布しています。保護者の方に学校教育への理解を深めていただくとともに、先生方が教えるべき内容・時期を確認できるものになっています。



- ① 教科目標、学習計画表
例：内容、時数、定期考査の予定
- ② 評価について
例：評価項目、評価方法
- ③ 深く学ぶために
例：学び方のヒント（「考察を文章や図で表現する」）
- ④ ご家庭の方へ
例：家庭学習の内容、声掛けの仕方

テストのレイアウトの統一化

中学校の教科担任制では授業ごとに授業の進め方、板書やノートのとり方等が大きく異なっていて、その変化に対応できない子どももいます。評価テストも、小学校の全教科統一の単元テストと比べて、中学校は教科ごとの自作のために、レイアウト、設問、選択肢、解答方法なども統一されていません。

東山泉小中学校では6年生から段階的に定期考査を取り入れています。全学年（6～9年）、全教科でテストのレイアウト等を合わせることで統一を図り、子どもたちが迷うことなくテストに向き合い、力が発揮できるよう工夫しています。

統一レイアウトによる定期考査



事例 14

小学校での実践例から……

子ども一人一人の「目が輝く授業」をめざして

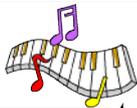
小栗栖宮山小学校では、ある学年の教師集団が協働で授業改善に取り組み、厳しい状況にあった子どもたちの学力をわずか一年で飛躍的に向上させ、さらに、その実践を学校全体に普及させることにより、組織的に学力向上を目指しています。その取組とは…。

▶▶▶▶▶ 学年で取り組む授業改善 <「音楽」と「体育」の交換授業>

学年2学級の2人の担任がそれぞれの専門性を活かし音楽と体育の「交換授業」を行い、**学力差が少なく苦手意識が低い教科の特性を生かして、子どもが主体的に学ぶ授業を展開しています。**

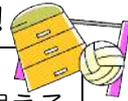
音楽では

すべての子どもに達成感が！
自由に表現できる学習集団へ！



体育では

得意な子どもだけでなく全員で楽しむ！
自信をもって意欲的に取り組む！



授
業
が

- めあて**…授業の導入に「既習内容を生かしてできる活動」と「本時のめあてに迫る活動」を取り入れ、子ども自らがめあてをもてるようにする。
- 言語活動の充実**…音楽の良さや面白さを体全体で表現し、なぜそうしたかを考えたり、伝え合ったりする場面を設定。言語表現に迷う時に活用できる、曲想の“感じ”を表す言葉や、音楽を形づくる要素に関する「音楽の言葉」を提示する。
- 評価**…子どもが自信をもてるように、その表現に対して的確な価値付け（評価）する。

- 授業の工夫**…運動の特性を味わえるように、技能面の指導だけでなく、全員が楽しいと思える活動を取り入れる。また、勝ち負けだけにこだわることをないように指導する。
- 言語活動の充実**…集団種目では作戦タイムやふりかえりの話合いの時間を、個人種目ではペアでお互いにアドバイスしあう時間を、設定する。
- 評価**…ふりかえりでは、技能のほか、子どもの思考をきちんと見取り、ほめたり励ましたり（評価）するため「学習カード」を活用する。

楽
し
い

■ さらに音楽・体育での実践を生かし、他の教科・領域でも、「子どもの主体的な学び」をつくるための“授業づくり”を進めています。

教師が「この時間で子どもたちにどんな力をつけるのか。」という意識をしっかりとつことが、その授業を意味あるものにする。（担任の言葉から）

また、この学年での取組を学校全体のものとするため、当該教員が全学年でモデル授業を行い、「**全教職員でよりよい授業をつくっていきましょう!!**」という意識を高め、授業改善につなげています。

■ あわせて、交換授業と並行して

- 始業前に宿題の点検をして、最後まで丁寧に仕上げるように指導する。授業開始前にやり直しをさせる。
- ジョイプロのおさらいプリントは、放課後や夏休みに何度もくり返し取り組ませる。
- テスト問題の形式や分量に慣れるために、過去問も何度も取り組ませる。
- 担任外の教員の協力も得ながら、何度も問題を解く経験を子どもに積ませる。

▶▶▶▶▶ 学年の成果から学校全体の成果へ <学校体制で組織的な対応>

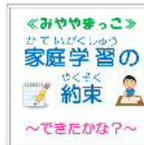
「あたりまえ」の徹底が学力向上につながっています。主な取組は以下のとおりです。

- 授業力の向上
 - ・教職員の“発想”“技術”“理論”を積極的に活用し、ボトムアップで授業力の向上を図る
 - ・“授業のあり方”“授業に向かう基本的な姿勢”をすべての教職員で「共有」し「徹底」する
- 学習指導の「あたりまえ」の実践
 - ・教師や児童の話を「聞く」姿勢と挨拶の励行
 - ・授業時間の厳守
 - ・「めあて」と「ふりかえり」の徹底
 - ・朝は教室で子どもを迎える
 - ・その時間の“柱・出口”が意識できる授業づくり
 - ・子どものくらしを捉えて授業に臨む

- 校内学習環境の整備
 - ・ユニバーサルデザイン化や掲示物の充実
- 子どもの生活リズムの安定
 - ・不登校傾向、遅刻への徹底した働きかけ
 - ・登校指導 家庭訪問 家庭連絡とサポート
 - ・関係機関との連携
- 家庭学習の充実
 - ・「みややまスタンダード」の作成
 - ・担任外の教員による担任へのサポート体制（確認・マル付け・評価・プリント作成）
 - ・放課後まなび教室と連携した課題学習

研究を核に
共有と徹底

学年会の充実
校内OJT推進



みややま
発行



★学びのコンパスに記載している写真等は、光京都イントラの学校指導課のページに記載しています★
光京都イントラ>●3 各課のページへ>学校指導課>●子どもたちの学力向上をめざして・学びのコンパス

学びのコンパス 平成29年8月・第5号

《発行元》京都市教育委員会指導部学校指導課 小中一貫教育・学校運営企画担当(Tel.222-3801)

